2008年8月

しょうがっこうを送る会様　プラン特別プロジェクト　ご提案
フィリピンにおける学校建設プロジェクト

1. プロジェクトの背景

このプロジェクトは、フィリピン国、サマールウエスト活動地域で実施を予定しております。

フィリピン基本データ
- 人口：8,305 万人
- 5 歳未満児死亡率：33 人/1000 人
- 小学 5 年生の定着率：75%
- 1 人当り国民総所得（GNI）：1,300 米ドル

「ユニセフ世界子供白書　2007」より

プランは、フィリピンで1961年に活動を開始して以来、首都マニラの国統括事務所と9つの現地事務所を拠点として住民参加型の地域開発活動に取り組んでいます。

このプロジェクトを実施するサマール州ダラム町バレス・ベロ村は、サマール島西部に位置する離島、ダラム島にある貧しい農村です。この村はダラム町の中心から北に約9.5キロメートル離れた ところにあり、144世帯760人が暮らしています。ダラム町にある他の多くの海岸沿いの村と同様、政府の公共サービスはほとんど届いていません。住民は漁業と農業で生計を立てていますが、伝統的な漁法や農法に頼っているため、生産高は大きくありません。また、毎年7月から9月にかけて発生するモンスーンの期間は、漁業従事者は高波により漁に出ることができず、農業従事者は農作物に大きな損害を受けるなどして収入源が断たれてしまいます。

バレス・ベロ村では、貧困から派生する様々な問題を抱えていますが、中でも教育環境の整備は緊急の課題です。
村にあるバレス・ベロ小学校では現在、3人の教師のもと、1年生から6年生まで154人の子どもたち（男子81人、女子73人）が学んでいます。

バレス・ベロ小学校は、1967年に小学校1年生と2年生を粗末な簡易校舎に集めて始まりました。その後、村の子どもの数の増加にともなって生徒数も増え、1980年代に念願であったコンクリート製の1教室ができました。そのコンクリート教室と簡易教室で、1、2年生と3、4年生がそれぞれ複式学級で学んでいましたが、2008年6月の台風により簡易教室が崩壊しました。
以前、学校には5、6年生が使用していた簡易教室がもう1室ありましたが、こちらは2006年10月の台風により崩壊したため、2007年は5、6年生の受入れを一時中止しました。この間、これらの子どもたちは隣りの村の学校に通わなくてはなりませんでした。現在は、5、6年生の受入れを再開していますが、教室がないため、屋外で授業を行っています。

学校では、教室のほかに、机やいすなどの教室備品、教科書も不足しており、3人の子どもたちが1つのいすに座って、1冊の教科書を共用しています。それでもいすが足りないため、立ったままで授業を受けている子どももいます。このような環境では、教師も子どもたちも授業に集中することが難しく、教育の質、学習効率ともに低下しています。

（写真左）
台風で崩壊した簡易校舎。骨組みが弱いため台風に耐えることができず、倒壊してしまいました。

（写真左下、下）
バレス・ベロ小学校に通学する子どもたち。沿岸を歩いたり、川を手漕ぎボートで渡って通学しています。

2. プロジェクトの概要

前述の状況を改善するために、このプロジェクトでは下記の活動を予定しております。

バレス・ベロ小学校に

■ 校舎1棟（2教室）を建設します。

■ 机やいすなどの教室備品を支給します。

このプロジェクトの実施により、現在バレス・ベロ小学校に通う154人の子どもたちがよりよい環境で学習できるようになります。さらに長期的には、より多くの子どもたちが充分な知識を得て成長することにより、地域全体が貧困から少しずつ脱却していくことに貢献します。

このプロジェクトの実現は、MDGs（国連ミレニアム開発目標）[1] 目標2：初等教育の完全普及の達成に貢献します。

3. プロジェクトの実施方法

プランが行うプロジェクトは、住民参加型です。地域の人々は計画立案から、実施、進捗管理、評価などプロジェクトのすべての段階に関わり、プロジェクトを中心となって進める役割を担います。地域の人々が計画段階から参加することによって、プロジェクトが自分たちのものであるという意識が強まり、プロジェクト完了後も地域の人々によってこの校舎が効果的に運営され、プロジェクトによる成果が継続していく体制が出来上がります。

プランは、地域の人々がプロジェクトを管理運営するために必要なノウハウの講習や、専門家による保健・衛生・教育など各分野での専門的能力向上トレーニングなどを並行して行うことで側面から全体を支えます。

[1] 2000年国連で採択された「国連ミレニアム宣言」の一部で、世界共通の問題に地球規模で取り組むため、2015年までに達成すべき目標として設定されました。全8項目には極度の貧困と飢餓の撲滅、乳幼児死亡率の削減、初等教育の完全普及などが含まれており、プランの目標やミッションと重なります。プランもMDGsに呼応した形で活動を続けています。

5. 活動期間・成果のご報告

このプロジェクトの活動期間は、約6ヶ月を予定しております。
なお、天候などの現地事情によって活動期間が前後する場合があります。
プロジェクト完了後、報告書を作成し、写真を添えてお届けいたします。
その他、ご要望に応じて随時、進捗状況をご報告いたします。

6. 記念プレート

完成した校舎には、ご指定のお名前などを入れたプレートをお付けします。
ご希望の場合は、お気軽にお申し出ください。

7. お問合せ先

財団法人　日本フォスター・プラン協会（プラン・ジャパン）
プラン特別プロジェクト担当　　寺田　聡子 TEL：03－5481－6265／FAX：03－5481－6200 Email：terata@plan-japan.org